

## 平成30年度米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

1. 日 時 平成31年 3月14日(木) 13:30～16:00

2. 場 所 ANAクラウンプラザホテル米子 琥珀島

3. 出席者 【委員】

河 田 康 志(議長) (鳥取大学工学部長)

三 谷 知 世(宇部工業高等専門学校長)

坂 井 敏 明(境港市立第一中学校長)

森 脇 孝(米子工業高等専門学校振興協力会会長)

角 正 樹(株式会社NTT データユニバーシティ取締役)

谷 口 美奈子(米子工業高等専門学校後援会会長)

矢 末 誠(米子工業高等専門学校同窓会会長)

【米子工業高等専門学校】

氷 室 昭 三(校長)

川 邊 博(校長補佐(教務))

新 田 陽 一(校長補佐(総務・企画))

稲 田 祐 二(校長補佐(学生))

山 本 英 樹(校長補佐(寮務))

松 本 至(校長補佐(専攻科))

河 野 清 尊(校長補佐(社会連携))

入木田 浩 幸(事務部長)

曾 田 弘 喜(総務課長)

景 山 修 司(学生課長)

【説明者】

松 本 正 己(医工連携研究センター副センター長)

※“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ(医工連携)

布 施 圭 司(リベラルアーツセンター長)

※“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ(リベラルアーツ)

森 田 慎 一(男女共同参画推進室長・キャリア支援室長)

※“KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ(女性技術者)

4. 欠席者 なし

5. 議 事

- ① 平成 30 年度「“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ」最終評価について
  - ・第 4 次産業革命対応型医工連携教育システムの構築（継続）
  - ・新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育（継続）
  - ・山陰とっとり・しまねの企業とつくる女性技術者活躍推進プログラム（新規）
- ② “チーム米子高専”「学生指導支援体制の再整備」について
- ③ 平成 30 年度 年度計画及び自己点検・評価報告について
- ④ その他

6. 校長挨拶

開会にあたり校長から、学生の学会発表や各種コンテスト等における活躍状況について紹介の後、議事①～③の概要について説明があり、今後の学校運営の参考とするため、忌憚のない意見をいただきたい旨の依頼をもって挨拶とした。

7. 出席者自己紹介及び配布資料確認

8. 議長選出

総務課長から（司会）から、評議員会の会長を委員の互選による選出依頼の後、委員から河田鳥取大学工学部長を推薦する旨の提案があり、異議なしで河田鳥取大学工学部長を会長に選出した。

9. 議事

①平成 30 年度「“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ」最終評価について

昨年度から 2 ヶ年計画で取り組んでいる「“KOSEN（高専）4.0”イニシアティブ」2 事業及び今年度において新たに採択された 1 事業について、資料に基づき「第 4 次産業革命対応型医工連携教育システムの構築」を松本医工連携研究センター副センター長から、「新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育」を布施リベラルアーツセンター長から、「山陰とっとり・しまねの企業とつくる女性技術者活躍推進プログラム」を森田男女共同参画推進室長・キャリア支援室長から、それぞれ事業の概要と実施内容の説明があった。

**【質疑応答・意見交換】**

各委員から以下の意見があった。

#### (第4次産業革命対応型医工連携教育システムの構築)

- 今年度は、YMCA 米子医療福祉専門学校との連携も始まり、さらに幅広くなっている印象を持った。
- 医療技術に限らず医療産業全体を高専らしい着眼、提案ができれば、医療現場の改善に貢献できる。
- 取組成果を評価する場合、企業では①原因系評価（どれだけの取り組みをしたか）と②結果系評価（どれだけの成果に結びついたか）の2軸で評価する。取組初期は、①のウエイトが高くなるが、進行に応じて②を高めるべきで、来年度は②のウエイトを高めた目標設定と評価を期待する。
- 「医工連携」と「数理・データサイエンス」の関りが分かりにくい。「数理・データサイエンス」は、すべての分野に関わるものである。

→（松本医工連携研究センター副センター長）「数理・データサイエンス」は、幅広いものであるが、動機付けのきっかけとして「医工連携」をテーマとして提供したもの。

- 評価指標として、アンケート調査の「満足度」があるが、満足度以外にもう少し細かい評価（ポートフォリオ、ルーブリック等）が必要ではないか。

→（松本医工連携研究センター副センター長）評価については、例として「満足度」を挙げたもので、内容の難易度や今後の展開等についても項目立てしている。

#### (新時代のジェネリックスキル養成のためのリベラルアーツ教育)

- 卒業する時点でリベラルアーツ教育がどの程度の成果をあげたのか、その可視化を検討いただきたい。
- 子供が就活を始めたが、大学生と比較し、自分には足りないものがたくさんあると言っていた。今から言っても遅いが、このような先輩の失敗談を座談会のような形式で後輩に伝えることができれば良い。

- 図書の貸出数については、昨年と比較し増加しているが、増加した結果のみで終わるのではなく、細かい分析をして今後に繋げて欲しい。
- 「ジェネリックスキル」は、捉えどころが難しいが、学生の学会等での活躍が増えてきているのを見ると浸透してきていると感じる。
- 図書の貸出数については、貸出総数や平均値での評価ではなく、貸出冊数を分布で分析する必要がある。トップ集団に目を向けるのか、学校全体の底上げを狙うのか目標の設定方法を検討いただきたい。
- 取組成果を評価する場合、企業では①原因系評価（どれだけの取り組みをしたか）と②結果系評価（どれだけの成果に結びついたか）の2軸で評価する。取組初期は、①のウエイトが高くなるが、進行に応じて②を高めるべきで、来年度は②のウエイトを高めた目標設定と評価を期待する。
- 学生自身が「リベラルアーツ」「教養」そのものをどの程度理解しているかが疑問。これを理解していないと意味が薄くなる。
  - （布施リベラルアーツセンター長）「リベラルアーツ」とは何か？とても難しい。読書習慣や各種コンテストでの活躍がひとつの指標となるが、その点については今後の課題と考えている。

**（山陰とっとり・しまねの企業とつくる女性技術者活躍推進プログラム）**

- 女性技術者の育成は、非常に大事なテーマで意義があり、今後の取り組みに期待する。
- 取組成果を評価する場合、企業では①原因系評価（どれだけの取り組みをしたか）と②結果系評価（どれだけの成果に結びついたか）の2軸で評価する。取組初期は、①のウエイトが高くなるが、進行に応じて②を高めるべきで、来年度は②のウエイトを高めた目標設定と評価を期待する。
- 「女性リーダーの育成」については、これからの生活の中で男性パートナーの協力が必要

で、女子学生だけでなく男子学生へも同じ意識付けをお願いしたい。

- 男性がしっかりしないと女性の社会進出はできない。「女性リーダーの育成」については、何年か先に実現できるような取り組みを期待している。
  
  - 境港市立第一中学校から今回の入試で推薦・学力合わせて 18 名が受験させていただいたが、そのうち 4 名が女子で割合としては少ない。また、教える側としては、理数系を教えることができる女性の教員は少なく、男性の教員に頼ってしまうのが現状で、理数系に関心欲を持たすことができなかつた原因なのかもしれない。興味、関心を持たす工夫が必要と感じている。
  
  - 最近はまだあまり聞かないが、「リケジョ」というキーワードは、プラスのイメージがある。今後の継続的活動を期待している。
- （森田男女共同参画推進室長・キャリア支援室長）高専機構の目標として、女子学生の割合を目標 30%に設定しており、本校としてもそれを超えるような取り組みをしていく。

## ② “チーム米子高専” 「学生指導支援体制の再整備」について

今年度から予算を確保し、学校を挙げて取り組みを始めた「学生指導支援体制の再整備」について、資料に基づき川邊校長補佐（教務）から事業の概要と実施内容の説明があった。

### 【質疑応答・意見交換】

各委員から以下の意見があった。

- 相談件数について、総件数のみの分析がなされているが、低学年、高学年別の件数とか、ひとりで複数回相談に来ている学生の件数とかをさらに分析できると、さらに相談の状況が浮き彫りになり、事故を未然に防ぐように誘導できる。
  
- 支援が手厚く、保護者としては非常に助かる。ただ、支援を求めてくる学生は良いが、自ら支援を求めてこない学生が少なからずいるはずで、その対応も検討して欲しい。
  
- 良い取り組みであり、うらやましいと思う一方で、特別予算が確保できなくなった場合の

対応を考えておく必要がある。

→（川邊校長補佐（教務））特別予算を確保できなくなった場合の対応については、手厚いサポートができていながらそのノウハウを学びとり、独り立ちできるようにする必要があると考えている。

### ③平成 30 年度 年度計画及び自己点検・評価報告について

平成 30 年度 年度計画及び自己点検・評価報告について、新田校長補佐（総務・企画）から今年度の 12 月に受けた機構監事監査の評価結果と絡めて説明があった。

#### 【質疑応答・意見交換】

各委員から以下の意見があった。

- 科研費の申請率 56%について、鳥取大学では 100%を目標として設定している。申請は、どのような分野があるのか？

→（河野校長補佐（社会連携））今年度は、本校教員が研究代表者となっているものとして、「基盤 C」で 3 件が採択されている。なお、申請率 56%には、分担者としての申請は含んでいない。

- 国際交流が足りないとの評価であったようだが、具体的にどの部分が足りないのか？

→（新田校長補佐（総務・企画））本校の交流先の中心は、韓国、台湾などアジア圏が多い。おそらく、英語圏との交流が少ないのが見劣りする原因ではないかと感じている。

- 業務改善について、仕事の量を能力で割ると何時間かかるかが分かる。能力を改善し伸ばすには限界があるので、仕事の量を減らすのが現実的。無駄な仕事を減らす、選別することから着手されたら良い。

→（新田校長補佐（総務・企画））室、センター等が増えて、ひとりの教員が校務をいくつも兼任している現状にあり、来年度は見直しを行い、改善を図っていきたいと考えている。

④その他

なし

10. 校長挨拶

閉会にあたり校長から、今回いただいた貴重なご意見を参考にして、今後の本校の発展のため改善に取り組んでいきたい旨の挨拶があり閉会となった。